

海と漁業を科学するプロジェクト 閉鎖循環型ホッケ陸上養殖事業の動き

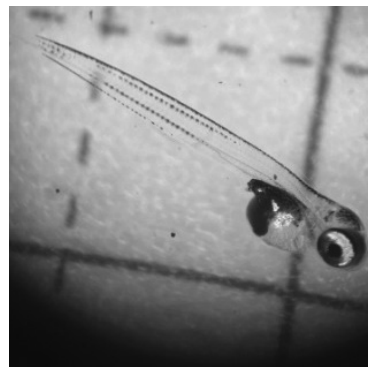
町では、海洋環境の変化により、秋サケやスケトウダラなど主要魚種の漁獲量が伸び悩む中、今年度から3カ年の実証事業として、閉鎖循環型のホッケ陸上養殖事業にチャレンジし、新たな産業創出の可能性を探っています。

そこで、このプロジェクトの進ちょく情報をはじめ、養殖ホッケや陸上養殖にまつわる情報を交えながら、広報紙で定期連載を行っていきます。

本格的に実証実験がスタート 種苗生産・ふ化が始まりました

10月8日には、漁業関係者と合同でホッケの採卵・受精作業を行い、約100gの受精卵を確保し、41日後の11月18日に無事にふ化が始まりました。

今後は、北海道大学発のスタートアップ企業「^{ア ク シ ム} ㈱A Q Sim」と協力し、ふ化したホッケの飼育データに基づき、生産技術の確立や事業の採算性等の検証を行います。



将来的には、ホッケの生産規模の拡大のほか、閉鎖循環型の陸上養殖技術を町内で確立させ、漁業者などの声を聞きながら、他魚種への応用など、新たな漁業の確立に向けて事業を進めていきます。

☆養殖豆知識☆ ～閉鎖循環型編～

○閉鎖循環型の陸上養殖って？

- ・飼育する水槽の他に、フィルターや微細な泡による物理ろ過装置と消化細菌の働きによる生物ろ過水槽を用いて、一度組み入れた海水を常にきれいな状態で循環させて、魚を飼育する技術です。

○特徴やメリットは？

- ・海水をくみ上げる必要がないため、内陸部でも飼育が可能であり、電気代等のコストを抑えることができる。
- ・水温を調整でき、自然界で発生する海水温の上昇などの外的影響を受けない。
- ・寄生虫（アニサキス）などがいない魚を育てられ、刺し身での提供が可能になる。